

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 16 日現在

機関番号：32644

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03456

研究課題名(和文) 自己省察ツールによる異文化間能力養成を目指す一貫教育モデルの構築

 研究課題名(英文) Construction of Instructional Models to Nurture Intercultural Competence  
 Connecting All Levels of Education by the Use of Self-Reflective Tools

研究代表者

松本 佳穂子 (Matsumoto, Kahoko)

東海大学・国際教育センター・教授

研究者番号：30349427

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、欧州評議会言語政策部門によって異文化間能力(Intercultural Competence)養成のために開発され、欧州で広くで使用されている自律的省察ツール、「Autobiography of Intercultural Encounters (AIE)」の通常版と子供版を、日本の小学校から大学に至る教育現場に導入し、様々な授業形態における実験で得られたデータの分析を基に、指標や指導・評価方法を開発・最適化した。更に、そこで明らかになった各教育段階の生徒・学生の異文化意識を反映しつつ、異文化対処能力育成のための一貫教育モデルを、言語教育と異文化理解教育に対して4種類ずつ構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

まだ日本では殆ど実験も導入もされていない異文化間能力の養成を目指すヨーロッパの自己省察ツール(AIE)の使用効果を、小学校から大学に至る様々な授業形態において実験・検証し、今後どのような能力をどう育成していけばよいのかについて、様々な実践の場に合った具体的な指標や指導・評価方法を構築・提供した。また各教育段階における生徒・学生の発達的異文化意識の特徴を明らかにすることを通じて、小学校から大学に至る実践を繋ぐ異文化間能力養成のための一貫した教育モデルを8種類(言語教育用4種類、異文化理解教育用4種類)構築し、学会発表、教員研修やウェブサイトなどを通じて公開・共有した。

研究成果の概要(英文)：This study introduced "Autobiography of Intercultural Encounters (AIE)", a self-reflective tool developed by the Language Policy Division of Council of Europe to nurture intercultural competence and widely used in Europe, to Japanese educational settings, where the use of both its adult and young learners' versions were experimented in various types of classes at different educational levels. Based on the in-depth analysis of ample collected data, objectives (Can-do lists) and methods of teaching and evaluation were created after repeated validation and optimization. In the process, the developmental characteristics of intercultural awareness of students at different educational stages were elucidated, thus, reflecting them, 4 instructional models for language and intercultural education courses respectively that connect elementary, secondary and tertiary levels were constructed in order to establish consistency in our effort to develop intercultural competence in Japanese youths.

研究分野：応用言語学

キーワード：異文化間能力 自己省察ツール(AIE) 異文化理解教育 一貫教育モデル 複文化的アプローチ

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は 2010 年度から 2013 年度までヨーロッパの複言語・複文化的アプローチの中から生まれた広域プロジェクトである FREPA (Framework for Reference for Pluralistic Approaches) と北米のクリティカル・シンキングの指標を基に、日本の大学の外国語教育の中で教えるべき異文化間能力 (Intercultural Competence) の指標構築とそれに基づく教材と評価ツール開発を行ってきた (基盤研究 (B) 課題番号 22320111: 言語教育におけるクリティカル・シンキング能力に関する到達目標・評価基準の開発研究)。その過程で、自らの異文化体験を様々な質問に答えることによって多面的に振り返らせ、学習者本人の中に気づき、省察、より適切な対応への再考を促す Autobiography of Intercultural Encounters (AIE) を翻訳したものを Moodle 上に置いて大学生に実験的に使用させてみたところ、その大きな可能性に気付いた。

異文化間能力の育成は本来小学校から体系的に行われるべきであり、「汎ヨーロッパ市民」としての異文化間能力の養成を幼少期からの生涯教育として行うヨーロッパの様々な取組みに学ぶところは大きい。そこで、本研究では日本における同様の枠組みを構築することを目指すことにした。ちょうど 2013 年 11 月にデジタル画像を多用した子供用の AIE の新バージョンが完成・公開されたので、小学校から大学までの教育の中でこの省察的ツールを体系的に利用する方法や教育モデルを作ることが可能になった。その過程で、開発者のマイケル・バイラム博士 (ヨーロッパ評議会言語政策部門顧問) や FREPA プロジェクトのコーディネーターたちからも、カリキュラム開発や教育モデル構築について常に助言を得られる体制ができていた。

### 2. 研究の目的

ヨーロッパ評議会言語政策部によって複言語・複文化的アプローチによる異文化間能力 (Intercultural Competence) 養成のために開発され、ヨーロッパで広く使われている「自己省察ツール」 Autobiography of Intercultural Encounters (以下 AIE と記す) を、日本の小学校から大学に至る教育現場に導入し異文化理解教育における効果の検証を行うことが本研究の第一の目的である。AIE は、異文化への気づきや肯定的な態度を内省活動によって促し、多様な異文化間能力の向上に役立つことが立証されている。また、英語だけでなく多言語に対応しており、2013 年にデジタル画像を多用した子供版も発表された。本研究では、英語版を英語教育の中で利用する場合と日本語版を一般的な異文化理解教育の文脈で利用する場合に分けて様々な実地検証を行う。第二の目的は、これを異文化対処能力・問題解決能力の育成に有効な自律的ツールとして、指導方法、カリキュラム開発、評価方法などと連携させて、小学校から大学までをカバーする異文化間能力養成の一貫教育のモデル構築及び最適化を図ることである。

### 3. 研究の方法

- (1) 現行の AIE の使用状況、使用方法、効果についてヨーロッパ各国での実践と研究成果を精査し、専門家の助言も得て、日本の状況に合った導入方法を決定する。
- (2) 2013 年に発表された子供用のバージョンを翻訳し、英語版は英語教育の中で、日本語版は一般的な異文化理解教育の文脈で、小学校から大学までの様々な教育現場で試用する実験を行う。
- (3) 異文化間能力の構成要素を測定できる評価ツールを開発し、実験で得られたデータから異文化間能力の育成効果を比較・検証する。更に年齢層別の AIE の記録データのテキスト分析を行い、各発達レベルに合った Can-do チェックリストを構築する。その際 AIE の発問の自己調整機能も分析する。
- (4) 上記 3 段階の分析に基づき、教育状況や授業のタイプ別に AIE を導入した教育のモデル化・最適化を図り、更にそこから小学校から一貫教育として異文化間能力の育成を行う総合的な教育モデルを必要数提唱する。

### 4. 研究成果

上記の様々な分析を行うため、最終的に、大学生 326 名、高校生 122 名、中学生 166 名、小学生 192 名 (内インタビューを 19 含む) を分析し、異文化に対する意識の発達的变化を見ることができた。

#### (!) AIE の効果

本研究では自律的な自省ツールである AIE への回答を、匿名データとして使用したが、高校生・大学生 (特に大学生) については約 50 問の問いに答える間に、自分の選んだ異文化との遭遇について、改めて深く多面的に考え直すことで、回答経過において考え方や態度の変容が見られた。最初はネガティブに捉えていた外国人とのやり取りについて、自分の方にも非があったかも知れないと考え直したり、最終的には「こうすべきであった、ああすべきであった」というコメントに繋がっていた (大学生の 3 分の 1 ぐらいにそれが見られた)。つまり、このツール自体を異文化理解を含む授業に組み込んで、教師が教え込む形ではなく異文化意識の向上や異文化間能力の獲得をバックアップする可能性が示された。

また、この AIE を自分でやった経験から何を学んだかという最後の質問に関して、以下の 3 つの回答が多く得られたのは、学生の言語や文化に関する意欲を高める効果を示していると思う。

もっと外国語 (英語) を勉強して、世界の人々と交流したいと思った。

もっと世界のいろいろな文化について知りたいと思った。

将来、海外に行って、違う文化を自分で経験したいと思った。

## (2) デキスト分析によって得られた発達段階別の特徴

### 大学生の反応の特徴

まず、大学のグローバル化により、大学生が非常に様々な地域からの多世代の人々と遭遇していることに驚かされた。以下が内訳である。

- Encounters in Japan: 225, Encounters outside Japan: 101
- Countries: Asia (10 different countries) (115), North America (50), Europe (42), Middle East (29), Oceania (incl. Micronesia) (27), Latin America (21), Russia (18), Africa (14), Japanese with different ethnic backgrounds (10)
- Age: Children (28), University Students (145), Adults (134), Older Adults over 60 (19)

大学生の反応に見られる特徴は、自分と違う文化を持つ人々に対して、「違う」ということを前提に、「自分たち日本人 vs. 外国人」のように集合的かつ対峙的に捉える姿勢が随所に見られたことである。これは他国でも見られる傾向ではあるが、(1)外国人の中に様々な文化を抱える人々がいてそれぞれが違うことにあまり注意が向いていないこと、そして(2)感想や判断を示すコメントの中はかなりステレオタイプ的で「十羽ひとからげ(sweeping statements)」の様相を呈すものが見られ、それが偏見につながる懸念を持った。

### 小学生の反応の特徴

小学生の場合は、遭遇する外国人に限られるので、地方においては時々授業をしてくれる英語の先生を挙げる生徒も多かったが、そのような限られた体験の中でも、直感的でその時何を感じたかについての素直な反応が多くを占めていた。つまり、相手について判断をしたり決めつけたりすることはなく、純粋に違いに驚き、興味を示し、時に怖がるというような感情表現が多いため、形容詞や形容動詞による表現が圧倒的に多かった。一方、テレビなどのメディアや家族や親戚などの近しい人々の影響を想像させる、ステレオタイプの表現もいくらか見られた。

### 中学生・高校生の特徴

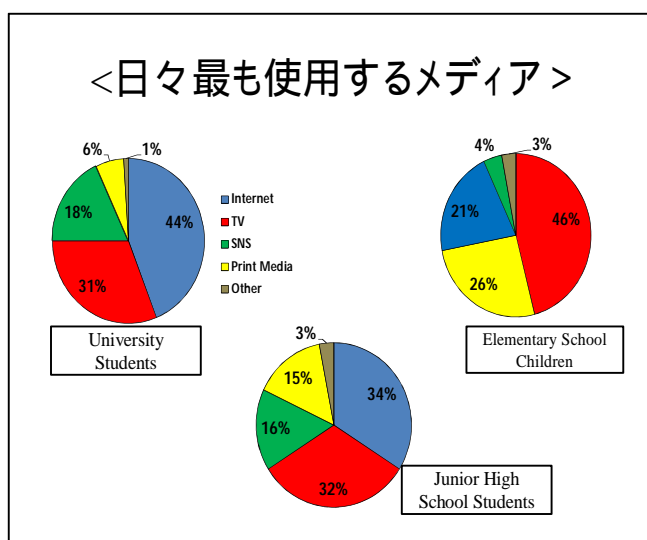
中学生と高校生の反応は、ちょうど大学生と小学生の間にあり、徐々に大学生に見られた異文化を二項対立的に見るような態度やステレオタイプのコメントが増えていた。つまり、多分メディアや周りの人々からの影響が増すにつれ、「この国や民族はこういう人たち」というような刷り込みが増していることが伺えた。以下にそれぞれの教育レベルの学生・生徒が最も使用するメディアの調査結果を示す。

### 足場掛けの必要性

以上の結果から、まだ異文化体験も少なく、ステレオタイプのものの見方が浸透していない小学校や中学校からの足場掛けとしての異文化理解教育が必要だと感じた。実際、数クラスずつではあるが、継続的に1時間の授業を数回続けた小・中学校のクラスでは、異文化への興味が増すと同時に、異文化への理解・受容において、偏見なく自ら考える態度が育っている様子がAIEの分析結果に見られている。これらの分析結果を基に足場掛けとしての様々な授業形態を試行したが、効果は生徒の属性と同時に、教育環境(地域性、教育機器の充実度など)にもよるため、それぞれの教育レベルごとに実情に合った指標(Can-do リスト)、指導・評価方法を作成するために、これらのテキスト分析結果を使用した。

## (3) 複線的な教育モデルの構築と検証

最終的に、上記のような総合的・多面的な分析結果と異文化間能力の構成要素を対照しつつ、段階的な教育目標を指標化して Can-do チェックリストにまとめた。また、AIE によってどの程度「自律的内面化」がなされているかを更に詳細に分析し、8種類の一貫カリキュラム及び教育モデル(言語教育用4種類、異文化理解教育用4種類)を暫定的に構築し、2018年度と2019年度にそれらの最適化を目指す試行を行った。具体的には、小学校から大学までの英語の授業と一般的な異文化理解教育の授業の中でそれぞれのモデルの試行を行い、授業タイプ別、授業形態別のAIEを用いた異文化間能力養成教育のモデル化、その精緻化を図った。そのために、各教育レベルにおいて、より効果が見られた状況・教材・タスクや指導方法を選択し、それを修正・調整



したり組み合わせたりして、小学校から大学までの一貫教育として異文化間能力養成を行うための総合的かつ複線型の教育モデルを提案した。

ここで8種類と言っているのは定型的な教育モデルではなく、モジュールからなる複線型の指導モデルである。例えば小学校、中学校、高等学校、大学での言語教育と異文化理解教育に対して、それぞれの実情に合わせて違う種類の教育モデルのモジュールを柔軟に組み合わせることができる。特にそれぞれのモジュールの内容や指導方法については、学会や研究会での発表やワークショップを通じて、参加者から収集したフィードバックを参考に修正・調整を重ねた。

小学生・中学生には足場掛けとしての導入や手助けが必要なので、留学生が自分の国や文化について語るビデオや、あまり身近でない異文化に関する情報を与えて考えさせる教材などを作成して数種類の導入パターンを構築したが、大学生に対しては、授業でたまたま異文化理解に触れるだけで、AIEは自律的に使用できる。ただ、そこまで成熟していない高校生に対してどのような足場掛けや支援をして、小・中学校での指導と大学での自律的学習をつなぐのかが、残された課題である。そのために、高校段階での指導に関してはそれぞれの現場の要求に合った様々な授業例や指導・評価のパターンをいくつか示している。

\* これまでの成果は主要論文や資料と共に下記のウェブサイトにもまとめ、これをワークショップや教員研修に使用すると同時に、研究や教材使用などのための問い合わせ窓口を開設している。

「異文化間能力を伸ばす新しい異文化理解教育」<https://intercultural-education.net/>

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Kahoko Matsumoto	4. 巻 1
2. 論文標題 Japanese Students' Developmental Changes in Intercultural Competence	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Selected Paper of 2019 PAAL International Conference	6. 最初と最後の頁 1-8 (in print)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kahoko Matsumoto	4. 巻 1
2. 論文標題 Japanese Students' Developmental Changes in Intercultural Competence (Symposium Summary)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 2019 PAAL(Pan-Pacific Association of Applied Linguistics) International Conference Proceedings	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本佳穂子	4. 巻 19
2. 論文標題 ヨーロッパの異文化理解教育から学べること	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 異文化交流	6. 最初と最後の頁 137-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kahoko Matsumoto	4. 巻 1
2. 論文標題 Semantic Analysis of the Japanese Students' Self-reflective Entries of Intercultural Encounters to Find the Developmental Changes of Intercultural Competence	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The proceedings of the 23rd PAAL Conference	6. 最初と最後の頁 Sec.D2 (USB)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kahoko Matsumoto	4. 巻 1
2. 論文標題 The Semantic Analysis of Media Influence in Moodle-based Self-reflective Entries of Intercultural Encounters of Children and University Students	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 2017 SITE Proceedings	6. 最初と最後の頁 406-409
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 松本佳穂子	4. 巻 17
2. 論文標題 ヨーロッパの複言語・複文化教育から学べることークロアチアでの教員研修に参加して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 異文化交流	6. 最初と最後の頁 86-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本佳穂子	4. 巻 別冊 2
2. 論文標題 大学教育で養成すべきグローバル・スキルの構成要素の探求ー異文化間能力の重要性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書 (言語をめぐる 章)	6. 最初と最後の頁 290-302
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 18件)

1. 発表者名 Kahoko Matsumoto
2. 発表標題 Japanese Students' Developmental Changes in Intercultural Competence
3. 学会等名 14th INTED (International Technology and Development) Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kahoko Matsuoto & Takeshi Kitazawa
2. 発表標題 Japanese Students' Developmental Changes in Intercultural Competence
3. 学会等名 日本教育工学会2019年秋季全国大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kahoko Matsumoto
2. 発表標題 Japanese Students' Developmental Changes in Intercultural Competence
3. 学会等名 第24回環太平洋応用言語学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本佳穂子
2. 発表標題 ヨーロッパの省察的ツール(AIE)を使用した異文化理解教育の試み
3. 学会等名 第45回全国英語教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kahoko Matsumoto
2. 発表標題 In Search for the Necessary Components of Global Citizenship
3. 学会等名 第17回Asia-TEFL国際大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kahoko Matsumoto & Takeshi Kitazawa
2. 発表標題 Analysis of Japanese students' developmental changes in intercultural competence
3. 学会等名 第16回Asia-TEFL国際大会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kahoko Matsumoto
2. 発表標題 Semantic Analysis of the Japanese Students' Entries of Intercultural Encounters to Find the Developmental Changes of Intercultural Competence
3. 学会等名 第23回環太平洋応用言語学会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kahoko Matsumoto
2. 発表標題 Developmental Changes in Intercultural Competence of Japanese Students at Different Educational Levels
3. 学会等名 第15回CamTESOL国際大会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kahoko Matsumoto
2. 発表標題 Attempt to Raise Intercultural Awareness and Competence of Japanese Students
3. 学会等名 第54回RELC国際大会 (国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 Kahoko Matsumoto & Takeshi Kitazawa
2. 発表標題 Creation of an Assessment Tool for Global Citizenship
3. 学会等名 Educating the Global Citizen 国際大会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kahoko Matsumoto
2. 発表標題 Issues surrounding Global Citizenship Education (パネルディスカッションのパネリスト)
3. 学会等名 Educating the Global Citizen 国際大会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本佳穂子
2. 発表標題 グローバル人材・異文化間能力育成プロジェクト
3. 学会等名 大学英語教育学会クリティカル・シンキング研究会年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kahoko Matsumoto
2. 発表標題 Developing Instructional Models and Assessment Tools for Intercultural Competence
3. 学会等名 CAES International Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kahoko Matsumoto
2. 発表標題 The Semantic Analysis of Self-reflective Entries of Intercultural Encounters of Children, Junior High School and University Students
3. 学会等名 第33回日本教育工学会全国大会(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kahoko Matsumoto
2. 発表標題 Creation of the Criteria and Instructional Models of Intercultural Competence Tailored to Japanese Students
3. 学会等名 JALT Brain & CT SIG Conference(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kahoko Matsumoto, Naoyuki Naganuma and Yukie Koyama
2. 発表標題 An Attempt to Use the European Self-reflective Tool, Autobiography of Intercultural Encounters (AIE) for Intercultural Awareness Raising in Japan
3. 学会等名 International Conference on Research in Multilingualism(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kahoko Matsumoto
2. 発表標題 Attempt to Create an Assessment Tool for Global Citizenship
3. 学会等名 53rd RELC International Conference(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kahoko Matsumoto and Koyama Yukie
2. 発表標題 Influence of Mass Media as Seen in Self-reflective Entries of Intercultural Encounters of Children and University Students
3. 学会等名 International Conference: Media Literacy in Foreign Language Education (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kahoko Matsumoto
2. 発表標題 The Semantic Analysis of Media Influence in Moodle-based Self-reflective Entries of Intercultural Encounters of Children and University Students
3. 学会等名 第28回SITE国際大会(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kahoko Matsumoto and Toshihiko Takeuchi
2. 発表標題 The Skills and Attitudes Required of a Global Citizen
3. 学会等名 第13回CamTESOL国際大会(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kahoko Matsumoto
2. 発表標題 The Competencies and Skills Required of a Global Citizen: A Report on the Plurilingual/Pluricultural Training in Europe
3. 学会等名 Symposium on Global Citizenship Education (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松本佳穂子
2. 発表標題 日本人に求められるグローバル市民性とは？ - 国際的に活躍する方々を対象とした調査から見えてきたもの -
3. 学会等名 異文化間理解教育講演会とシンポジウム(使用言語英語) (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Kahoko Matsumoto [ in A.Jimenez-Munoz & A.C.L. Martinez (eds)]	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Peter Lang	5. 総ページ数 28
3. 書名 Empirical Studies in Multilingualism (第9章担当)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	北澤 武 (Kitazawa Takeshi)  (80453033)	東京学芸大学・教育学部・准教授  (12604)	
研究協力者	畠山 由香子 (Hatakeyama Yukako)		
連携研究者	小山 由紀江 (Koyama Yukie)  (20293251)	名古屋工業大学・工学研究科・名誉教授  (13903)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携 研究者	長沼 君主 (Naganuma Naoyuki)  (20365836)	東海大学・国際教育センター・教授    (32644)	